

就労成人男性および大学生を対象とした
インターネットによる行動科学的 HIV 予防介入の実施可能性の検討に関する研究

研究分担者：西村 由実子（関西看護医療大学看護学部）

研究代表者：日高 庸晴（宝塚大学看護学部）

研究要旨

本研究の目的は、就労成人男性（以下成人男性）および大学生において、インターネットを利用した HIV 感染予防に関する調査と介入活動の実施可能性を検討することである。構造化自記式質問票を用いた横断調査を、①成人男性に対してはウェブサイト上で、②大学生に対しては、紙の質問票に記入してもらった集合調査で実施した。結果、570名の成人男性、653名の大学生から有効な回答を得た。平均年齢は就労成人男性 36.6 歳、大学生 19.9 歳だった。1日にパソコンのインターネットを使用する時間は、成人男性では 3～5 時間（29.5%）、大学生では 1～3 時間（39.4%）が最も多かった。また、成人男性と比べて大学生は携帯電話の利用の割合が高い。エイズ予防に対する自己効力感が高い者の割合は成人男性では 52.6%、大学生では 38.8%だった。成人男性について風俗使用経験がある者は 46.0%、大学生で性経験がある者は 50.7%であり、これらについてはクロス集計で関連ある要因を検討した。成人男性も大学生もインターネットに対する親和性が高く、インターネットを利用した HIV に関する調査および介入は実施可能である。その際、（1）成人男性であれば職場、大学生であれば大学といった対象者が属する社会（組織）への働きかけを伴うようにすること、（2）携帯電話やスマートフォンの利用増加というインターネット使用媒体の変化に対応すること、（3）エイズや性に対する意識や態度の変化に積極的に働き掛けること、などの配慮が重要である。そうすれば、これまでハイリスク戦略として MSM に対して有効であった HIV 予防対策の手法が、ポピュレーション戦略として、より裾野を広げた対象者に実施することができるだろう。

A. 研究目的

インターネットと健康との関係は、①インターネットが人々の健康を脅かす要因になるという視点と、②インターネットが人々の健康を促進する要因あるいはツールとなるという、2つの視点が考えられる。本研究は、日本の一般的な人々に対する HIV 予防対策のツールとしてのインターネットの活用可能性を探るという視点に立って計画された。

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業
「インターネット利用層への行動科学的 HIV

予防介入とモニタリングに関する研究」(研究代表者：日高庸晴) 研究班では、平成 20 年度より、Men who have sex with men (以下 MSM) のインターネット利用層における HIV 感染予防行動の動向把握と予防介入を目的として、3つの研究プロジェクトを実施してきた。①行動科学的手法によるインターネット利用層への予防介入 (REACH Online2009)、②行動科学的手法を用いた行動変容の予防介入に関する文献研究、③HIV 陽性 MSM の感染リスクと HIV 対策をめぐる意味づけと行為の検討、

である。これらから、MSM を対象としたインターネットを利用した行動科学的な HIV 予防介入は、①知識・予防行動に関する自信度（自己効力感）の上昇、②リスク認知および行動変容への動機付けの望ましい方向への変化、③コンドーム使用行動の促進が、効果として確認されている。さらに、インターネットを利用した行動科学的な健康教育は、健常者、リスク保持者、患者等、様々なグループを対象として、多岐の分野において、実施・応用されていることが明らかになっている。

本研究の目的は、就労成人男性および大学生において、インターネットを利用した、HIV 感染予防に関する調査と介入活動が実施可能かどうか、また、可能な場合は、どのような配慮が必要か、を検討することにある。そして、日本の HIV 予防対策において、より裾野を広げた対象者に対するプログラムの立案に貢献することを目的とする。

B. 方法

構造化自記式質問票を用いた横断調査を平成 22 年 11 月から平成 23 年 1 月に実施した。

B.1 対象者

対象者は、①就労成人男性と、②大学生である。就労成人男性（以下成人男性）は、日本在住の職業をもつ成人男性とし、複数の研究協力者を通してスノーボールサンプリングで参加者を募り、ウェブサイト上の質問票に各自がパソコンからアクセスして回答するインターネット調査とした。大学生は、関西圏の、教員の研究協力を得ることができたクラスに赴き、紙の自記式質問票を配り、その場で回答・回収する集合調査方式とした。

B.2 倫理的配慮

本研究は、関西看護医療大学研究倫理委員会の承認を得て実施した。ヘルシンキ宣言（2008 年ソウル改訂）の趣旨に沿い、厚生労

働省「臨床研究に関する倫理指針（平成 16 年 12 月 28 日全部改正）」及び「疫学的研究に関する倫理指針（平成 20 年 12 月 1 日一部改正）」に準拠して、倫理的な配慮をした。具体的には次のとおりである。

○ 調査目的、内容、参加が任意であり、答えたくない質問には回答しなくてよいことを説明同意文書に明記し、同意をした者のみ、質問票への回答に協力してもらった。

○ 質問票において個人の同定につながるような情報は入手しなかった。ウェブ上の成人男性の回答データは、安全な環境において暗号化されて送信された。大学生の回答後質問票は、研究分担者の鍵のかかる保管庫に厳重な管理のもと保管した。

○ 成人男性の研究参加者には、先着 300 名様に 500 円相当の Amazon ギフト券を、大学生には、性感染症とエイズに関する情報パンフレットを、謝礼として配った。

C. 結果

成人男性は、平成 23 年 3 月 31 日の調査終了時点で、650 名の回答があった。そのうち、職業を無職および学生と回答したケースや無回答が大半であるケースを除く、570 件を有効回答とした。大学生は、4 大学での調査終了時点で、687 名からの回答があった。そのうち、無回答が大半を占めるケース及び 26 歳以上は無効とし、653 件の有効回答を得た。

C.1 基本属性

成人男性の平均年齢は 36.6 歳（中央値 36、最頻値 36、標準偏差 9.4）である。居住県は、愛知県（108 名）が最も多く、ついで、東京都（78 名）、兵庫県（51 名）、大阪府（40 名）、神奈川県（35 名）と続き、44 都道府県から回答を得ている。職業形態では、常勤（正規）が、6 割をしめ（62.8%）、経営者 15.6%、パート 11.4%となっている。職業について業種でみると、サービス業（29.6%）、製造業（21.8%）、

小売業（12.6%）が多い。最終学歴は、大学卒業（48.1%）、高校卒業（25.3%）、専門学校卒業（10.9%）が大半を占めている。年収については、約半数が 400 万円以下である一方で、1000 万円以上の高所得者も約 9%いる。結婚については、49.6%が未婚者で、現在結婚しているという人は 44.9%である。

大学生の平均年齢は 19.9 歳（中央値 20、最頻値 19、標準偏差 1.3）である。居住地は、基本的に関西地区 2 府 4 県であり特に兵庫県（70.3%）が多い。68.8%がアルバイトをしていると答えており、1 か月に自由に使えるお金の額は、全くなし（0 円）から 20 万円まで幅があるが、平均では 33,849 円となっている。学部は看護学部や社会福祉学部などである。

成人男性については、喫煙、飲酒、薬物利用、および国内・海外旅行経験を聞いた。現在、たばこを（毎日および時々）吸っている人の割合は約 20%ほどであるのに対し、お酒を（毎日、週に 2~3 回、月に 2~3 回）飲む人の割合は 73%に上る。薬物の生涯使用割合は極めて低く、ほとんどの薬物について 1%未満だが、有機溶剤（シンナー）の使用（1.9%）、大麻（1.6%）、向精神薬の乱用（1.4%）については、1%を超えていた。国内旅行には、年に 1 回もしくは半年に 1 回行くという人たちが約半数であり、それらを中心として、もっと頻繁に行く人と 3 年以上行っていないという人にわかれる。海外旅行には、3 年以上行っていないという人が 4 割、一度も言ったことがない人が 3 割弱である。海外旅行に行ったことがある人の中で 46%は、身近なアジアの国へ行ったと答えている。

大学生には、喫煙、飲酒、薬物使用の経験を聞いた。現在、たばこを（毎日および時々）吸っている人の割合は約 10%、お酒を（毎日、週に 2~3 回、月に 2~3 回）飲む人の割合は 60%弱で、成人男性より低いが、これは、未成年も含むという年齢の影響が大きいだろう。薬物の生涯使用経験は、極めて低くほとんど

1%未満だが、向精神薬の乱用のみ 1%を超えて、1.7%から報告があった。

C.2 メディア使用

次に本研究の中心課題の一つであるインターネットを中心としたメディア使用の一般的な状況についてである。

まず、成人男性だが、パソコンのインターネットを 1 日に使用する時間は、3~5 時間（29.5%）が最も多く、1~3 時間（28.6%）および 5 時間以上（25.2%）を加えると、全体の 83%におよぶ。使用環境は、69.3%が自宅に自分専用のパソコンを持っており、職場においても 47.5%は自分専用のパソコンがある。パソコンのインターネットを使用する目的としては、仕事に役立つ情報を得るため、というのが最も多く、87.0%が挙げていた。次いで、生活情報、趣味情報、買い物が 7 割を超えていた。一方で、携帯電話のインターネットを使用する時間は、パソコンの場合より非常に短く、対象者の 4 分の 3 は、1 時間未満か「全く使わない」者であった。使用目的も、パソコンの場合と異なり、連絡（34.9%）や暇つぶし（33.7%）として使用するにとどまる場合が多いようである。また、インターネット以外の情報メディアとして毎日使用するものは、テレビ（77.0%）と新聞（51.6%）は高率だが、雑誌（17.0%）とラジオ（16.7%）は、一部にとどまっていた。

大学生のメディア使用状況は、成人男性と比べると、携帯の利用の割合が高くなっていることが特徴である。大学生が 1 日にパソコンのインターネットを使用する時間は、1~3 時間（39.4%）が最も多く、同程度に、1 時間未満（34.7%）がおり、5 時間以上は少数派（4.1%）である。パソコンの使用環境は、家にある専用（55.6%）または、共有（42.3%）のパソコンで、大学に自分専用のパソコンがあるケースは稀（2.5%）である。一方で携帯のインターネット使用時間は、1~3 時間が 39.1%で最も多く、続くのは 1 時間未満

(23.9%)、3~5 時間 (18.5%)、であり、5 時間以上というヘビーユーザーも 10.5%もいた。目的別に、パソコンと携帯のインターネットの使用をみると、勉強情報については、パソコンのインターネット使用割合が高いが、娯楽、暇つぶし、連絡、ブログチェックおよびブログ発信では、パソコンより携帯の方がよく使われていることがわかる。インターネット以外の情報メディアについて、毎日使用するものは、テレビは 90.6%で圧倒的に高いが、その他は、新聞も 22.7%と成人男性と比べると非常に低く、雑誌 (12.7%)、ラジオ (3.1%) も低い割合である。

C.3 エイズに関する意識・知識・行動

エイズについては、基本的な意識や態度、検査行動、予防行動、知識、キャンペーン曝露、情報入手に対する希望、そして、身近に感染者がいるかどうか、を尋ねた。

まず、エイズに対する意識や態度は、「エイズを予防する」という行動について、社会的認知理論、計画的行動理論およびヘルスベリーフモデルの構成概念を表現する一文について「非常にそう思う」から「全くそう思わない」までの 5 段階リッカートスケールで尋ねた。「私は必ずエイズを予防することができる」という自信について「非常にそう思う」または「そう思う」と答えた、自己効力感の高い者の割合は、成人男性では 52.6%、大学生では 38.8%であった。成人男性のエイズ予防に対する自己効力感と相関関係が認められたのは、「私はエイズを予防するための方法を知っている (社会認知理論の実行能力)」 (Pearson $r = .42$, $p < .001$)、「私はエイズを予防しようと思っている (計画的行動理論の行動意図)」 (Pearson $r = .42$, $p < .001$)、「私の職場の同僚は、エイズにならないように気をつけている (社会認知理論の観察学習)」 (Pearson $r = .41$, $p < .001$)、「私の周りにエイズに関する情報は十分にある (社会認知理論の環境)」

(Pearson $r = .39$, $p < .001$) だった。大学生については、エイズ予防に対する自己効力感と相関があったのは、「私はエイズを予防しようと思っている (計画的行動理論の行動意図)」 (Pearson $r = .37$, $p < .001$) および「私はエイズを予防するための方法を知っている (社会認知理論の実行能力)」 (Pearson $r = .31$, $p < .001$) であった。大学生のエイズ予防自己効力感と相関係数が最も高かった、エイズ予防行動意図について、他の構成概念との関係を調べると、「きっと私の家族は、私にエイズ予防をしてほしい」 (計画的行動理論の主観的規範)」 (Pearson $r = .51$, $p < .001$) と正の相関が認められ、「いちいちエイズ予防することを考えるのは面倒である (社会認知理論の強化 (一) 因子)」 (Pearson $r = -.41$, $p < .001$) と負の相関が認められた。

エイズや性感染症に関する知識については、HIV 抗体検査、性感染症と HIV との関連、具体的な性行動と感染の可能性、抗 HIV 療法による治療が可能であること、A 型肝炎、B 型肝炎がワクチンによって予防可能であることなどについての 10 項目を「正しい」「間違っている」「わからない」という選択肢から選んでもらった。10 項目は、REACH において MSM を対象に尋ねたものと同様である。

成人男性、大学生共に、「A 型肝炎および B 型肝炎がワクチンで予防することができる」という知識の正答割合は 2 割以下で、非常に低くなっている。その他の項目では、全体としては 5 割程度の正答割合である。比較的、正答割合が高い項目は、保健所で無料匿名の HIV 抗体検査を受けることができること (正答割合: 成人男性 68.5%、大学生 69.6%)、コンドームを使わないオーラルセックスやアナルセックスで性感染症や HIV に感染する可能性がある、という点であった。

成人男性と大学生の正答割合を比べると、全体としては、大学生の方が高い。また、MSM (2009) と比べると、成人男性、大学生共に、

どの項目も、非常に低い正答割合となっており、この調査の対象者である就労成人男性および大学生に比して、MSM における HIV 性感染症に関する知識が高いことを示す結果となった。

エイズに関する行動として、これまでに、HIV 検査を受けたことがある人の割合（生涯経験）は、成人男性では 12.6%で、大学生の 2.3%よりかなり高い。また、周囲に HIV 陽性の友人・知人がいる、と答えた人の割合は、成人男性 2.1%、大学生 0.8%となっており、いずれも低く、エイズを身近な問題として認識しにくい環境であることがわかる。

このエイズに対する身近感の低さを反映してか、エイズ予防のために心がけていること、として、複数の選択肢の中から当てはまるものを選ぶ質問への回答割合は全体として低かった。最も多く回答されたものでも、成人男性では、「妻・恋人以外とセックスをしないようにしている」の 46.3%であり、大学生では、「セックスをするときは、必ずコンドームを使うようにしている」の 41.3%であった。

エイズ予防キャンペーンに、様々なメディアを通してどの程度、曝露しているかを尋ねたところ、テレビ（コマーシャルおよびニュース）とポスターが、成人男性、大学生共に 5 割前後の曝露があり、多かった。注目すべきは、インターネットにおけるキャンペーンを見聞きしたと答えた人の割合が成人男性では 3.9%、大学生では 5.7%と、非常に低いことである。大手検索サイトにおけるキャンペーンなども、一般的な成人男性および大学生の間では、あまり認知されていないようである。

しかし、エイズの情報をどんな媒体から知りたいか、という質問には、成人男性ではインターネットのホームページが最も多く（55.1%）、大学生ではテレビ（58.7%）について、インターネットのホームページ（31.1%）が多かった。また、インターネットを通してエイズの情報を得たいか、という質問に対しては、成人男性の

74.4%、大学生の 59%が「はい」と答えている。

では、具体的には、エイズについて、どのような情報をどのようなサイトから知りたいか、をより詳細にたずねた。内容としては、予防方法、治療方法、感染経路といったごく基本的情報に対する希望が成人男性、大学生共に高かった。また、サイトのスタイルとしては、文字による詳しい説明があること、最新情報が更新されること、落ち着いた配色であること、などへの要望が高かった。

C.4 性行動・性意識

性行動については、性経験のある者（成人男性 85.5%、大学生 50.7%）に対して、相手の性別、コンドーム使用についてたずね、性風俗利用経験については、成人男性にのみたずねた。性経験の相手について、性経験のある成人男性のうち、97.3%が女性のみ、0.2%が男性のみ、2.5%が男女両方と答えた。男子学生では、98.8%が女性のみ、1.3%が男性のみ、女子学生では 0.8%が女性のみ、97.1%が男性のみ、2.0%が男女両方と答えた。過去 6 カ月の性経験において必ずコンドームを使った人の割合は、成人男性では、39.7%、男子大学生では 57.7%、女子大学生では 54.4%だった。

成人男性における性風俗の使用経験は、店舗型のファッションヘルスへ行ったことがある人の割合が最も多く 34.0%であった。週刊誌購読者を対象とした東ら（2007）の研究では店舗型ファッションヘルスの使用経験は 58.1%となっており、全体として、本研究の対象者の風俗使用経験割合は低くなっている。まとめると、46.0%がリストにあった性風俗サービスのいずれか一つを使用したことがあるということだった。

この性風俗利用経験があるかないかについて、属性、ネット利用、エイズ意識、性意識との関係をクロス集計で調べた。P<0.05 の有意な関連が確認されたのは、年齢、職業形態、最終学

歴、年収、婚姻状態、喫煙行動、飲酒行動、国内外の旅行経験、PC および携帯のインターネット使用時間、自分自身もエイズになる可能性があるという意識、コンドーム常用使用で性行為による HIV 感染を予防できるという意識、家族が自分がエイズ予防をすることを期待しているという意識、エイズ検査経験、インターネットからエイズ情報を得たいという意識、過去 6 カ月のコンドーム使用、男・女の結婚前セックスを構わないとする意識、結婚している男性が妻以外とセックスをすることを構わないとする意識、恋人がいる男女が恋人以外とセックスをすることを構わないとする意識、男性同士がセックスすることをよくないとする意識、お金を払ったりもらったりしてセックスをすることを構わないとする意識、である。

性意識としては、結婚前/結婚外の性行為や同性同士の性行為、お金を介した性行為などの 11 項目についてどう考えるかを、「構わない」から「よくない」までの 4 つに「わからない」を加えた 5 つの選択肢で答えてもらった。

成人男性、大学生共に、結婚前の性行為については、「構わない・どちらかと言えばかまわない」が 8 割を超えており、許容度が高い。次いで許容度が高いのは、成人男性では、お金を介した性行為であるのに対し、大学生では同性間の性行為である。結婚関係あるいは恋人関係にある者が、他の者と性行為をすることについては、男女で程度の差があるが、許容度は最も低くなっている。大学生の性意識について、木原ら（2000）において「構わない」とした項目を比較すると、男子学生では、結婚前のセックス以外の項目で高くなっているのに対し、女子学生では、女性同士のセックスおよびお金を介したセックスのみで高くなっていた。

C.5 健康一般

エイズ以外の健康状態および検査行動について、成人男性にのみたずねた。調査対象となっ

た成人男性のうち、約 71.1%が調査時点で「健康である」としている。ただし、肩こり症（17.9%）、腰痛（16.0%）、歯の病気（11.9%）などは 10%代の報告があった。性感染症にかかっていると自認している人は極めて少なかった。自分の体の調子や病気について心配なときにどうするか、という治療を求める健康行動について、最も多いのは、医療機関へ行く（71.4%）だったが、それに続いて 2 番目に多かったのは、インターネットを利用して調べる（31.4%）という回答であり、家族や知人に尋ねる（24.4%）やテレビから情報を集める（11.4%）より多かった。これまでに受けたことがある検査（生涯経験）としては、職場での定期健診が 78.2%で圧倒的に多く、インフルエンザ検査、人間ドックは 20%代、市町村で行う健診 10%代であり、性感染症（梅毒、淋病、クラミジア）については、5%未満だった。

D. 考察

本研究は、知識・予防行動、リスク認知、コンドーム使用の改善という点で、MSM に対して効果的であった、インターネットによる行動科学的 HIV 予防教育が、就労成人男性および大学生を対象に実施可能か、という問題意識から出発した。この視点は、より広くは、公衆衛生上のハイリスク戦略において有効な手法を、ポピュレーション戦略に応用可能か、という視点と読み替えることができる。

ポピュレーション戦略とは、集団全体の平均リスクを下げることを目的とした戦略で、集団全体に益をもたらすが、もともとリスクが低い多くの個人が対策から得る利益は比較的少ない。一方でハイリスク戦略は、リスクが最も高い人々に対して重点的に行う対策で、リスクが高い個人への利益が大きいが一方で、集団に対する効果は限定的になる。一般的には、ポピュレーション戦略とハイリスク戦略を組み合わせることで、効果的な疾病の一次予防を実施することができるとされている。

我が国の HIV 予防対策において、MSM に対する対策が、ハイリスク戦略（あるいは脆弱性の高いグループ戦略）として、第一に採用されなければならないことは、近年の HIV/AIDS 発生動向をみれば明らかだろう。平成 21 年度の HIV 感染者の感染経路別内訳では、全体 1,021 件の約 68% が同性間での性的接触による HIV 感染である。

MSM に対するインターネットによる行動科学的 HIV 予防対策が効果的であった一要因として、多くのハイリスク戦略において難点となる、ハイリスクグループの同定（スクリーニング）とグループへのアクセスを突破した、という点が大いといえる。インターネットとそれにつながるコミュニティを通して、集団としてまとめてアプローチすることが難しい MSM に届くことができたのである。そして、認知行動理論に基づくステップバイステップのきめ細やかなネット上の予防教育プログラムは、それまで、一対一の行動カウンセリングや患者教育、自己管理スキルの指導として、費用をかけて少人数にしか実施できなかった対策を、遠隔地においても、また、ある程度の人数に対しても実施可能としたのである。

同様のプログラムを、ポピュレーション戦略としての色彩が強い、就労成人男性および大学生を対象に実施することはできるのだろうか。また、できるのであれば、どのような配慮が必要であろうか。

まず、本調査で明らかになったとおり、就労成人男性も、大学生も基本的にインターネットをよく使っている、という点で、MSM に対して効果的であったインターネット上のプログラムを実施することは可能だろう。特に成人男性において、エイズの情報をもどのメディアから得たいか、と尋ねられた際に、テレビよりも多くがインターネットのホームページを挙げたことは、エイズという性がからんでくる課題について、よりプライバシーが守られる環境で情報を得ることにニーズがあることを示しているだろう。

また、エイズに関するインターネットサイトに対して望むこととして、文字・イラストによる詳しい説明と最新情報のアップデートが高率で挙げられたことは、影響力はあるが手元に残すことができず一過性の高いテレビに対する、インターネットの情報提供媒体としての比較優位性を表すものである。

では、インターネットにおいて成人男性および大学生を対象に予防プログラムを展開するにあたっては、どのような配慮が必要だろうか。第一に、対象者が属する集団へのアプローチが必要である。就労成人男性であれば職場、大学生であれば大学という、対象者が属する社会への働きかけを伴わなければ、どんなに効果的なインターネットプログラムであっても、最大限の効果を発揮しないだろう。本調査において、インターネット上のエイズキャンペーンに対する認知は、成人男性、大学生共に非常に低かった。インターネットにアクセスできて、エイズに関するプログラムがそこにあっても、多くの一般的な人々のアンテナにはなかなか届かない。HIV 予防プログラムに対する、職場や大学といった組織・環境の理解と協力が不可欠である。

実際に、今回の調査では、成人就労男性の調査協力依頼にあたり、企業に勤める研究協力者を得て、企業内電子ネットワークを通じて社員への調査協力依頼ができないか検討をお願いした。結果的には、今回は、個人的ルートでの協力依頼には協力頂けたものの、会社としてのバックアップを頂くには至らなかった。理由としては、①会社の電子媒体を使用する場合は、会社の目的（社会貢献、社員の幸せ追求等）と一致している必要があるが、本調査の直接的な社員への利益が見え難いこと、②社内の IT は大きなホストコンピューターで管理されているため、ネット上の調査の場合、社員個人のプライバシーがどこまで守られるか保証できないこと、の 2 点であった。今回、時間不足により、これらの諸点を説明し、協力を得るには至らなかったが、これらの点をクリアにし、企業ベース

の協力を得ることができれば、非常に社会的価値の高い調査および介入を実施することができる可能性がある。

次に、インターネット使用環境として、若い大学生世代では、パソコンより携帯の方が馴染んでいる点を理解しておくべきである。本調査において、パソコンおよび携帯のインターネット利用状況は、成人男性と大学生で、その頻度も目的もかなり違っていた。個々の HIV 予防プログラムにおいて対象者の年代に応じて、パソコンがよいか、携帯がよいかを熟慮する必要があるだろう。スマートフォンの導入により、パソコンと携帯電話の違いは少なくなる可能性があるが、現段階では、考慮すべき点のひとつである。

さらに、本調査で、行動理論の概念に基づいて調べた人々の「エイズに関する意識や態度」および「性に対する意識」についても、注意深くモニターし、場合によってはそれらに働きかけていくことが大切である。自分は HIV に感染することを予防することができるのだ、という自信（自己効力感）を高めるためには、「予防方法を知っていること」が重要であり、そのためには基礎的な知識の提供が第一条件である。また、「職場の同僚がエイズについて気をつけている」という意識や、「家族が私にエイズ予防をしてほしいと思っているだろう」という意識が、エイズ予防への自信と深くかかわっていることが示唆された。これらは、プログラムの中で、具体的に丁寧に扱っていくことができるテーマである。また、性に関する意識では、例えば、同性愛に対する許容度が社会全体として高まることにより、MSM に対する対策がより実行しやすくなる、というような影響も考えられる。

以上、就労成人男性および大学生を対象としたインターネットによる HIV 予防対策の可能性について、ポピュレーション戦略としての可能性に言及した。これらは、ハイリスク戦略としての MSM に対する対策を補完する形で、最

大の効果を発揮すると考えられる。我が国の HIV 予防対策において必須である MSM 対策を下支えする礎として、今後、強化していくべきであろう。

E. 結論

就労成人男性および大学生という対象者は、インターネットに対する基本的な親和性が高い。我が国における MSM を対象とした HIV 対策を補完するポピュレーション戦略として、今後、就労成人男性および大学生へのインターネット調査および介入は強化していくべきだろう。

[参考資料]

1. McFarlane M, Bull SS, and Rietmeijer CA. The Internet as a newly Risk Environment for Sexually Transmitted Diseases. *JAMA*. 2000, 284 (4) : 443-446.
2. Bowen AM, Williams ML, Daniel CM, and Clayton S. Internet based HIV prevention research targeting rural MSM: feasibility, acceptability, and preliminary efficacy. *Journal of behavioral medicine* 2008, 31 (6) : 463-477.
3. Bull S, Pratte K, Whitesell N, Rietmeijer C, McFarlane M. Effects of an Internet-based intervention for HIV prevention: the Youthnet trials. *AIDS and Behavior* 2009, 13 (3) : 474-487.
4. Elford J, Graham B, Davis M, Sherr L, and Hart G. The Internet and HIV study: design and methods. *BMC Public Health* 2004, 4:39.
5. Markham CM, Shegog R, Leonard AL, Bui TC, and Paul ME. +CLICK: harnessing web-based training to reduce secondary transmission among HIV-positive youth. *AIDS Care* 2009, 21 (5) : 622-631.
6. 日高庸晴. インターネット利用層への行動科学的 HIV 予防介入とモニタリングに関する研究. 厚生労働化学研究費補助金エイズ対策研究事業平成 21 年度総括・分担研究報告書.

7. 橋本充代、日高庸晴. インターネットを用いた HIV 及び近接領域の介入プログラムの効果について：文献レビューによる検討. 日本エイズ学会誌 2010,12:111-122

8. 三浦秀史、高橋裕子. インターネットを利用した禁煙支援コミュニティの形成と禁煙支援プログラムの提供についての研究. 日本遠隔医療学会雑誌 2009,5 (2) :196-19

9. Rose G. Sick individuals and sick populations. *International Journal of epidemiology* 1985, 14 (1) :32-38.

10. 内閣府. 平成 22 年度青少年のインターネット利用環境実態調査報告書.平成 23 年 2 月

11. 和田清、嶋根卓也、立森久照. 薬物使用に関する全国調査 (2009).平成 21 年度厚生労働科学研究費補助金 (医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業) 分担報告書

12. 嶋根卓也、和田清、三島健一、藤原道弘. 大学新入生における薬物乱用実態に関する研究.平成 20 年度厚生労働化学研究費補助金 (医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業) 分担報告書

13. 東優子. 日本の性娯楽施設・産業に係わる人々への支援・予防対策の開発に関する学際的研究. 平成 18 年度総括・分担研究報告書

14. 木原正博ら. 日本の HIV/STD 関連知識、性行動、性意識についての全国調査—日本人の HIV/STD 関連知識、性行動、性意識に関する性・年齢別分析— 厚生科学研究補助金 HIV 感染症の疫学研究班平成 11 年度報告書

Cooperation Agency “HIV/AIDS diagnosis, Prevention and Control Plan” training course, June 7th 2010, Osaka.

(2) 西村由実子. 公衆衛生分野における国際的活動とキャリア. 大阪大学グローバルコラボレーションセンター (GLOCOL) セミナー(62)海外体験型教育企画オフィス (FIELDO) グローバル・エキスパート連続講座(2), 2010 年 12 月 10 日, 大阪.

(3) 西村由実子、日高庸晴. 就労成人男性および大学生を対象としたインターネットによる行動科学的 HIV 予防介入の実施可能性の検討. 厚生労働省エイズ対策研究事業 平成 22 年度合同班会議, 2011 年 1 月 22 日, 福岡.

F. 発表

[論文]

特になし

[研究会発表]

- (1) Yumiko H. Nishimura. Lecture entitled “Theories and methods for HIV prevention”, Japan International

表1. 属性(年齢階級)＜成人男性＞

	年齢階級				
	20歳代 n=143	30歳代 n=236	40歳代 n=129	50歳代 n=62	合計 n=570
職業形態**					
常勤(正規)	80 55.9%	155 65.7%	84 65.1%	39 62.9%	358 62.8%
常勤(非正規)	18 12.6%	21 8.9%	9 7.0%	2 3.2%	50 8.8%
パート	36 25.2%	23 9.7%	3 2.3%	3 4.8%	65 11.4%
経営者	8 5.6%	34 14.4%	31 24.0%	16 25.8%	89 15.6%
その他	1 0.7%	3 1.3%	2 1.6%	2 3.2%	8 1.4%
職業業種**					
建設業	17 11.9%	24 10.2%	8 6.2%	1 1.6%	50 8.8%
製造業	33 0.231	47 0.199	34 0.264	10 0.161	124 0.218
運輸・通信業	6 4.2%	15 6.4%	6 4.7%	0 0.0%	27 4.7%
卸売業	15 10.5%	9 3.8%	4 3.1%	8 12.9%	36 6.3%
小売業	22 15.4%	29 12.3%	18 14.0%	3 4.8%	72 12.6%
サービス業	39 27.3%	73 30.9%	41 31.8%	16 25.8%	169 29.6%
農林漁業	3 2.1%	3 1.3%	1 0.8%	0 0.0%	7 1.2%
教員	1 0.7%	8 3.4%	6 4.7%	9 14.5%	24 4.2%
公務員	0 0.0%	4 1.7%	2 1.6%	5 8.1%	11 1.9%
保健医療関係	0 0.0%	4 1.7%	2 1.6%	1 1.6%	7 1.2%
社会福祉関係	0 0.0%	4 1.7%	0 0.0%	1 1.6%	5 0.9%
その他	7 4.9%	16 6.8%	7 5.4%	8 12.9%	38 6.7%
最終学歴*					
中学卒業	8 5.6%	11 4.7%	0 0.0%	1 1.6%	20 3.6%
高校卒業	43 30.3%	60 25.8%	29 23.2%	10 16.4%	142 25.3%
高専卒業	5 3.5%	4 1.7%	1 0.8%	0 0.0%	10 1.8%
専門学校卒業	18 12.7%	32 13.7%	9 7.2%	2 3.3%	61 10.9%
短大卒業	8 5.6%	3 1.3%	4 3.2%	2 3.3%	17 3.0%
大学卒業	56 39.4%	105 45.1%	70 56.0%	39 63.9%	270 48.1%
大学院卒業	4 2.8%	17 7.3%	11 8.8%	7 11.5%	39 7.0%
その他	0 0.0%	1 0.4%	1 0.8%	0 0.0%	2 0.4%

表1. 属性(年齢階級)＜成人男性＞

	年齢階級				合計 n=570
	20歳代 n=143	30歳代 n=236	40歳代 n=129	50歳代 n=62	
年収**					
200万未満	42 29.6%	38 16.2%	15 11.7%	9 14.5%	104 18.4%
200万～400万	63 44.4%	66 28.2%	25 19.5%	4 6.5%	158 27.9%
400万～600万	20 14.1%	66 28.2%	22 17.2%	6 9.7%	114 20.1%
600万～800万	8 5.6%	40 17.1%	26 20.3%	12 19.4%	86 15.2%
800万～1000万	6 4.2%	18 7.7%	15 11.7%	14 22.6%	53 9.4%
1000万～1200万	0 0.0%	3 1.3%	13 10.2%	8 12.9%	24 4.2%
1200万～1400万	1 0.7%	2 0.9%	7 5.5%	3 4.8%	13 2.3%
1400万以上	2 1.4%	1 0.4%	5 3.9%	6 9.7%	14 2.5%
結婚**					
結婚したことがない	122 86.5%	122 52.4%	30 24.2%	3 4.9%	277 49.6%
結婚している	14 9.9%	95 40.8%	86 69.4%	56 91.8%	251 44.9%
別居中	1 0.7%	2 0.9%	1 0.8%	0 0.0%	4 0.7%
離婚した	2 1.4%	11 4.7%	5 4.0%	2 3.3%	20 3.6%
死別した	1 0.7%	3 1.3%	1 0.8%	0 0.0%	5 0.9%
その他	1 0.7%	0 0.0%	1 0.8%	0 0.0%	2 0.4%
たばこ					
毎日吸っている	24 16.9%	46 19.7%	28 21.9%	12 19.4%	110 19.5%
時々吸う	4 2.8%	3 1.3%	2 1.6%	1 1.6%	10 1.8%
以前は吸っていたが 1ヶ月以上吸っていない	19 13.4%	53 22.7%	25 19.5%	10 16.1%	107 18.9%
吸わない	95 66.9%	131 56.2%	73 57.0%	39 62.9%	338 59.8%
お酒*					
毎日飲む	18 12.9%	50 21.6%	44 34.4%	21 33.9%	133 23.7%
週に2～3回	37 26.4%	56 24.2%	34 26.6%	16 25.8%	143 25.5%
月に2～3回	36 25.7%	62 26.8%	24 18.8%	12 19.4%	134 23.9%
飲まない(飲めない)	49 35.0%	63 27.3%	26 20.3%	13 21.0%	151 26.9%

表1. 属性(年齢階級)＜成人男性＞

	年齢階級				合計 n=570
	20歳代 n=143	30歳代 n=236	40歳代 n=129	50歳代 n=62	
薬物使用経験(複数回答)					
有機溶剤	3 2.1%	6 2.5%	2 1.6%	0 0.0%	11 1.9%
大麻	1 0.7%	5 2.1%	3 2.3%	0 0.0%	9 1.6%
覚せい剤	0 0.0%	2 0.8%	0 0.0%	0 0.0%	2 0.4%
MDMA	0 0.0%	1 0.4%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.2%
コカイン	0 0.0%	0 0.0%	1 0.8%	0 0.0%	1 0.2%
ガス	1 0.7%	3 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	4 0.7%
向精神薬の多量摂取	3 2.1%	3 1.3%	2 1.6%	0 0.0%	8 1.4%
その他	0 0.0%	0 0.0%	1 0.8%	0 0.0%	1 0.2%
国内旅行**					
月に1回以上	14 9.8%	21 9.1%	23 18.1%	13 21.0%	71 12.6%
2～3ヶ月に1回	16 11.2%	39 17.0%	32 25.2%	12 19.4%	99 17.6%
半年に1回	29 20.3%	60 26.1%	30 23.6%	14 22.6%	133 23.7%
1年に1回	39 27.3%	62 27.0%	22 17.3%	16 25.8%	139 24.7%
最近3年行っていない	20 14.0%	40 17.4%	18 14.2%	7 11.3%	85 15.1%
一度も行ったことがない	25 17.5%	8 3.5%	2 1.6%	0 0.0%	35 6.2%
海外旅行**					
月に1回以上	2 1.4%	1 0.4%	0 0.0%	1 1.6%	4 0.7%
2～3ヶ月に1回	2 1.4%	3 1.3%	5 3.9%	2 3.2%	12 2.1%
半年に1回	5 3.5%	13 5.6%	10 7.8%	1 1.6%	29 5.1%
1年に1回	25 17.5%	39 16.7%	37 28.7%	16 25.8%	117 20.6%
最近3年行っていない	38 26.6%	105 44.9%	62 48.1%	37 59.7%	242 42.6%
一度も行ったことがない	71 49.7%	73 31.2%	15 11.6%	5 8.1%	164 28.9%
海外旅行先(398人中)					
アジア	31 43.7%	72 45.9%	49 43.0%	30 53.6%	182 45.7%
アフリカ	3 4.2%	3 1.9%	1 0.9%	0 0.0%	7 1.8%
ヨーロッパ	10 14.1%	18 11.5%	17 14.9%	6 10.7%	51 12.8%
北アメリカ	13 18.3%	29 18.5%	23 20.2%	10 17.9%	75 18.8%
南アメリカ	5 7.0%	5 3.2%	1 0.9%	2 3.6%	13 3.3%
太平洋諸国	4 5.6%	27 17.2%	17 14.9%	4 7.1%	52 13.1%
その他	5 7.0%	3 1.9%	6 5.3%	4 7.1%	18 4.5%

表2. インターネット利用(年齢階級)＜成人男性＞

	年齢階級				合計 n=570
	20歳代 n=143	30歳代 n=236	40歳代 n=129	50歳代 n=62	
PCインターネット一日使用時間**					
5時間以上	31 21.7%	75 32.1%	34 26.6%	3 4.8%	143 25.2%
3～5時間	52 36.4%	67 28.6%	37 28.9%	11 17.7%	167 29.5%
1～3時間	34 23.8%	61 26.1%	37 28.9%	30 48.4%	162 28.6%
1時間未満	17 11.9%	25 10.7%	18 14.1%	16 25.8%	76 13.4%
全く使わない	9 6.3%	5 2.1%	2 1.6%	1 1.6%	17 3.0%
その他	0 0.0%	1 0.4%	0 0.0%	1 1.6%	2 0.4%
PCインターネット使用環境(複数回答)					
自分専用のPCが家にある	110 76.9%	176 74.6%	81 62.8%	28 45.2%	359 69.3%
自分専用のPCが職場にある	35 24.5%	114 48.3%	81 62.8%	41 66.1%	271 47.5%
家族と共有のPCが家にある	25 17.5%	57 24.2%	34 26.4%	23 37.1%	139 24.4%
同僚と共有のPCが職場にある	12 8.4%	10 4.2%	3 2.3%	2 3.2%	27 4.7%
インターネットカフェなど	7 4.9%	3 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	10 1.8%
携帯インターネット一日使用時間**					
5時間以上	7 5.0%	11 4.8%	1 0.8%	2 3.3%	21 3.8%
3～5時間	10 7.1%	4 1.7%	2 1.6%	1 1.6%	17 3.0%
1～3時間	38 27.0%	27 11.7%	13 10.2%	4 6.6%	82 14.6%
1時間未満	51 36.2%	114 49.6%	71 55.5%	29 47.5%	265 47.3%
全く使わない	35 24.8%	73 31.7%	39 30.5%	24 39.3%	171 30.5%
その他	0 0.0%	1 0.4%	2 1.6%	1 1.6%	4 0.7%

表2. インターネット利用(年齢階級)＜成人男性＞

	年齢階級				
	20歳代 n=143	30歳代 n=236	40歳代 n=129	50歳代 n=62	合計 n=570
パソコンのインターネットを使う目的(複数回答)					
仕事情報	109 76.2%	211 89.4%	120 93.0%	56 90.3%	496 87.0%
生活情報	98 68.5%	203 86.0%	105 81.4%	50 80.6%	456 80.0%
趣味情報	95 66.4%	196 83.1%	106 82.2%	46 74.2%	443 77.7%
買い物	98 68.5%	194 82.2%	97 75.2%	35 56.5%	424 74.4%
娯楽	93 65.0%	178 75.4%	89 69.0%	31 50.0%	391 68.6%
暇つぶし	79 55.2%	142 60.2%	63 48.8%	25 40.3%	309 54.2%
連絡	60 42.0%	111 47.0%	64 49.6%	23 37.1%	258 45.3%
出会い	34 23.8%	53 22.5%	21 16.3%	9 14.5%	117 20.5%
ブログチェック	76 53.1%	151 64.0%	76 58.9%	35 56.5%	338 59.3%
ブログ発信	56 39.2%	103 43.6%	48 37.2%	19 30.6%	226 39.6%
その他	38 26.6%	49 20.8%	19 14.7%	5 8.1%	111 19.5%
携帯のインターネットを使う目的(複数回答)					
仕事情報	22 15.4%	39 16.5%	22 17.1%	4 6.5%	87 15.3%
生活情報	30 21.0%	48 20.3%	31 24.0%	10 16.1%	119 20.9%
趣味情報	34 23.8%	47 19.9%	22 17.1%	13 21.0%	116 20.4%
買い物	21 14.7%	36 15.3%	11 8.5%	2 3.2%	70 12.3%
娯楽	39 27.3%	51 21.6%	25 19.4%	9 14.5%	124 21.8%
暇つぶし	55 38.5%	87 36.9%	40 31.0%	10 16.1%	192 33.7%
連絡	45 31.5%	75 31.8%	52 40.3%	27 43.5%	199 34.9%
出会い	14 9.8%	10 4.2%	4 3.1%	5 8.1%	33 5.8%
ブログチェック	30 21.0%	49 20.8%	14 10.9%	11 17.7%	104 18.2%
ブログ発信	18 12.6%	30 12.7%	11 8.5%	5 8.1%	64 11.2%
その他	9 6.3%	10 4.2%	4 3.1%	2 3.2%	25 4.4%
インターネット以外の毎日利用する情報メディア(複数回答)					
新聞	42 29.4%	112 47.5%	86 66.7%	54 87.1%	294 51.6%
雑誌	26 18.2%	40 16.9%	21 16.3%	10 16.1%	97 17.0%
テレビ	110 76.9%	174 73.7%	103 79.8%	52 83.9%	439 77.0%
ラジオ	22 15.4%	33 14.0%	24 18.6%	16 25.8%	95 16.7%

表3. エイズ関連事項(年齢階級)＜成人男性＞

	年齢階級				
	20歳代 n=143	30歳代 n=236	40歳代 n=129	50歳代 n=62	合計 n=570
私自身もエイズになる可能性はあると思う*					
非常にそう思う	22	23	11	2	58
	15.5%	9.9%	8.6%	3.2%	10.3%
どちらかと言えばそう思う	39	54	26	8	127
	27.5%	23.3%	20.3%	12.9%	22.5%
どちらとも言えない	24	39	35	7	105
	16.9%	16.8%	27.3%	11.3%	18.6%
あまりそう思わない	29	77	35	25	166
	20.4%	33.2%	27.3%	40.3%	29.4%
全くそう思わない	28	39	21	20	108
	19.7%	16.8%	16.4%	32.3%	19.1%
もし、私がエイズになったら生活や仕事に支障があると思う*					
非常にそう思う	22	23	11	2	58
	15.5%	9.9%	8.6%	3.2%	10.3%
どちらかと言えばそう思う	39	54	26	8	127
	27.5%	23.3%	20.3%	12.9%	22.5%
どちらとも言えない	24	39	35	7	105
	16.9%	16.8%	27.3%	11.3%	18.6%
あまりそう思わない	29	77	35	25	166
	20.4%	33.2%	27.3%	40.3%	29.4%
全くそう思わない	28	39	21	20	108
	19.7%	16.8%	16.4%	32.3%	19.1%
私は、エイズを予防するための方法を知っている					
非常にそう思う	32	58	34	20	144
	22.7%	25.1%	26.4%	32.3%	25.6%
どちらかと言えばそう思う	61	116	58	34	269
	43.3%	50.2%	45.0%	54.8%	47.8%
どちらとも言えない	27	46	26	5	104
	19.1%	19.9%	20.2%	8.1%	18.5%
あまりそう思わない	14	7	8	3	32
	9.9%	3.0%	6.2%	4.8%	5.7%
全くそう思わない	7	4	3	0	14
	5.0%	1.7%	2.3%	0.0%	2.5%
常にコンドームを使えば、性行為でエイズになることはないと思う					
非常にそう思う	10	18	14	8	50
	7.0%	7.7%	10.9%	12.9%	8.8%
どちらかと言えばそう思う	35	72	43	26	176
	24.6%	30.9%	33.6%	41.9%	31.2%
どちらとも言えない	40	63	29	9	141
	28.2%	27.0%	22.7%	14.5%	25.0%
あまりそう思わない	30	45	27	10	112
	21.1%	19.3%	21.1%	16.1%	19.8%
全くそう思わない	27	35	15	9	86
	19.0%	15.0%	11.7%	14.5%	15.2%
エイズを予防することは大事だと、私は思う**					
非常にそう思う	85	170	98	56	409
	60.3%	73.6%	76.6%	90.3%	72.8%
どちらかと言えばそう思う	36	48	26	6	116
	25.5%	20.8%	20.3%	9.7%	20.6%
どちらとも言えない	12	8	4	0	24
	8.5%	3.5%	3.1%	0.0%	4.3%
あまりそう思わない	3	4	0	0	7
	2.1%	1.7%	0.0%	0.0%	1.2%
全くそう思わない	5	1	0	0	6
	3.5%	0.4%	0.0%	0.0%	1.1%

表3. エイズ関連事項(年齢階級)＜成人男性＞

	年齢階級				合計 n=570
	20歳代 n=143	30歳代 n=236	40歳代 n=129	50歳代 n=62	
いちいち、エイズ予防をすることを考えるのは面倒である*					
非常にそう思う	10 7.1%	8 3.4%	2 1.6%	1 1.6%	21 3.7%
どちらかと言えばそう思う	25 17.7%	21 9.0%	6 4.7%	4 6.6%	56 9.9%
どちらとも言えない	20 14.2%	40 17.2%	16 12.4%	5 8.2%	81 14.4%
あまりそう思わない	35 24.8%	67 28.8%	33 25.6%	16 26.2%	151 26.8%
全くそう思わない	51 36.2%	97 41.6%	72 55.8%	35 57.4%	255 45.2%
私はエイズを予防しようと思っている					
非常にそう思う	56 39.2%	101 43.3%	62 48.1%	39 62.9%	258 45.5%
どちらかと言えばそう思う	54 37.8%	86 36.9%	47 36.4%	18 29.0%	205 36.2%
どちらとも言えない	20 14.0%	37 15.9%	16 12.4%	2 3.2%	75 13.2%
あまりそう思わない	9 6.3%	5 2.1%	4 3.1%	2 3.2%	20 3.5%
全くそう思わない	4 2.8%	4 1.7%	0 0.0%	1 1.6%	9 1.6%
私は必ずエイズを予防することができると思う**					
非常にそう思う	20 14.0%	29 12.6%	21 16.3%	22 35.5%	92 16.3%
どちらかと言えばそう思う	37 25.9%	88 38.1%	58 45.0%	25 40.3%	208 36.8%
どちらとも言えない	56 39.2%	83 35.9%	39 30.2%	11 17.7%	189 33.5%
あまりそう思わない	19 13.3%	20 8.7%	8 6.2%	4 6.5%	51 9.0%
全くそう思わない	11 7.7%	11 4.8%	3 2.3%	0 0.0%	25 4.4%
私の職場の同僚はエイズにならないように気をつけている					
非常にそう思う	12 8.5%	19 8.3%	10 7.8%	7 11.3%	48 8.5%
どちらかと言えばそう思う	30 21.3%	42 18.3%	30 23.3%	15 24.2%	117 20.8%
どちらとも言えない	62 44.0%	127 55.2%	68 52.7%	36 58.1%	293 52.1%
あまりそう思わない	26 18.4%	29 12.6%	17 13.2%	2 3.2%	74 13.2%
全くそう思わない	11 7.8%	13 5.7%	4 3.1%	2 3.2%	30 5.3%
きっと私の家族は私にエイズ予防をしてほしいと思っている					
非常にそう思う	49 34.5%	105 45.5%	61 47.7%	35 56.5%	250 44.4%
どちらかと言えばそう思う	45 31.7%	67 29.0%	41 32.0%	16 25.8%	169 30.0%
どちらとも言えない	33 23.2%	41 17.7%	18 14.1%	9 14.5%	101 17.9%
あまりそう思わない	4 2.8%	12 5.2%	5 3.9%	1 1.6%	22 3.9%
全くそう思わない	11 7.7%	6 2.6%	3 2.3%	1 1.6%	21 3.7%

表3. エイズ関連事項(年齢階級)＜成人男性＞

	年齢階級				合計 n=570
	20歳代 n=143	30歳代 n=236	40歳代 n=129	50歳代 n=62	
私の周りにエイズに関する情報は十分にある					
非常にそう思う	16 11.2%	18 7.8%	16 12.4%	8 12.9%	58 10.2%
どちらかと言えばそう思う	26 18.2%	53 22.8%	31 24.0%	13 21.0%	123 21.7%
どちらとも言えない	54 37.8%	90 38.8%	45 34.9%	22 35.5%	211 37.3%
あまりそう思わない	35 24.5%	49 21.1%	27 20.9%	18 29.0%	129 22.8%
全くそう思わない	12 8.4%	22 9.5%	10 7.8%	1 1.6%	45 8.0%
私はエイズについてインターネットで調べたことがある**					
非常にそう思う	29 20.6%	37 15.9%	17 13.3%	7 11.3%	90 16.0%
どちらかと言えばそう思う	50 35.5%	77 33.2%	29 22.7%	7 11.3%	163 29.0%
どちらとも言えない	29 20.6%	39 16.8%	24 18.8%	15 24.2%	107 19.0%
あまりそう思わない	18 12.8%	45 19.4%	32 25.0%	11 17.7%	106 18.8%
全くそう思わない	15 10.6%	34 14.7%	26 20.3%	22 35.5%	97 17.2%
エイズ検査受検経験					
あり	14 9.8%	28 12.2%	16 12.4%	13 21.0%	71 12.6%
検査受験場所(エイズ検査受検者71名中)					
保健所・保健センター	6 42.9%	15 53.6%	7 43.8%	4 30.8%	32 45.1%
病院や医院	4 28.6%	10 35.7%	8 50.0%	6 46.2%	28 39.4%
自宅検査キット	3 21.4%	1 3.6%	0 0.0%	0 0.0%	4 5.6%
その他	1 7.1%	2 7.1%	1 6.3%	3 23.1%	7 9.9%
エイズ予防のためにころがけていること(複数回答)					
セックスしない	20 14.0%	22 9.3%	10 7.8%	2 3.2%	54 9.5%
妻・恋人以外とセックスしない	59 41.3%	111 47.0%	60 46.5%	34 54.8%	264 46.3%
セックス時必ずコンドーム	60 42.0%	85 36.0%	37 28.7%	21 33.9%	203 35.6%
妻・恋人以外のセックス時必ずコンドーム	12 8.40%	34 14.40%	27 20.90%	17 27.40%	90 15.80%
薬物使用しない	26 18.2%	59 25.0%	37 28.7%	18 29.0%	140 24.6%
注射のまわし打ちはしない	5 3.5%	16 6.8%	8 6.2%	3 4.8%	32 5.6%
その他	1 0.7%	1 0.4%	3 2.3%	1 1.6%	6 1.1%
エイズ予防ころがけてない	23 16.1%	31 13.1%	19 14.7%	5 8.1%	78 13.7%

表3. エイズ関連事項(年齢階級)＜成人男性＞

	年齢階級				合計 n=570
	20歳代 n=143	30歳代 n=236	40歳代 n=129	50歳代 n=62	
エイズ・性感染症知識正答					
保健所で名前を言わずに無料でHIV検査ができる					
正しい	91 63.6%	159 69.1%	96 75.0%	39 63.9%	385 68.5%
血液中のHIVウィルス量が低ければ、HIVに感染しない**					
間違っている	58 40.8%	110 47.6%	72 55.8%	35 56.5%	275 48.8%
HIV抗体検査では、感染後2～3にちで感染がわかる					
間違っている	50 35.0%	101 43.5%	55 42.6%	27 43.5%	233 41.2%
性感染症にかかっているとHIVに感染しやすい					
正しい	64 44.8%	92 40.0%	55 42.6%	14 22.6%	225 39.9%
性感染症の病原体に感染すると必ず症状がでる*					
間違っている	65 45.8%	140 61.4%	75 58.6%	42 67.7%	322 57.5%
コンドームを使わないオーラルセックスで性感染症に感染する可能性がある					
正しい	95 66.9%	184 79.3%	101 78.3%	49 79.0%	429 75.9%
コンドームを使わないアナルセックスでHIVに感染する可能性がある*					
正しい	98 69.0%	200 86.2%	108 83.7%	50 80.6%	456 80.7%
現在、エイズは抗HIV療法によりすぐには死なない病気になっている*					
正しい	74 52.1%	122 53.5%	74 57.8%	44 71.0%	314 56.1%
A型肝炎はワクチンで予防することができる*					
正しい	36 25.2%	27 11.7%	19 14.8%	15 24.2%	97 17.2%
B型肝炎はワクチンで予防することができる					
正しい	30 21.4%	36 15.6%	16 12.5%	13 21.0%	95 16.9%
見聞きしたことがあるエイズ予防キャンペーン(複数回答)					
テレビコマーシャル	91 63.6%	154 65.3%	92 71.3%	45 72.6%	382 67.0%
テレビニュース	53 37.1%	85 36.0%	50 38.8%	25 40.3%	213 37.4%
ポスター	62 43.4%	102 43.2%	59 45.7%	30 48.4%	253 44.4%
電車つり広告	21 14.7%	26 11.0%	18 14.0%	9 14.5%	74 13.0%
ラジオ番組	13 9.1%	33 14.0%	27 20.9%	9 14.5%	82 14.4%
インターネットキャンペーン	6 4.2%	7 3.0%	6 4.7%	3 4.8%	22 3.9%
街頭キャンペーン	19 13.3%	26 11.0%	15 11.6%	5 8.1%	65 11.4%
検査イベント	2 1.4%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.6%	3 0.5%
その他	2 1.4%	1 0.4%	4 3.1%	4 6.5%	11 1.9%
エイズキャンペーン見聞き無	12 8.4%	21 8.9%	6 4.7%	4 6.5%	43 7.5%

表3. エイズ関連事項(年齢階級)＜成人男性＞

	年齢階級				
	20歳代 n=143	30歳代 n=236	40歳代 n=129	50歳代 n=62	合計 n=570
エイズに関して知りたい情報(複数回答)					
医学・生物学的情報	55 38.5%	96 40.7%	49 38.0%	26 41.9%	226 39.6%
感染経路	63 44.1%	123 52.1%	79 61.2%	36 58.1%	301 52.8%
セックス感染具体的に	63 44.1%	96 40.7%	57 44.2%	30 48.4%	246 43.2%
予防方法	67 46.9%	127 53.8%	76 58.9%	35 56.5%	305 53.5%
検査方法	54 37.8%	84 35.6%	47 36.4%	20 32.3%	205 36.0%
検査後	46 32.2%	86 36.4%	58 45.0%	26 41.9%	216 37.9%
治療方法	63 44.1%	122 51.7%	70 54.3%	26 41.9%	281 49.3%
世界や日本の数	27 18.9%	74 31.4%	44 34.1%	18 29.0%	163 28.6%
体験談	22 15.4%	63 26.7%	26 20.2%	10 16.1%	121 21.2%
子どもたちへの伝え方	17 11.9%	60 25.4%	40 31.0%	15 24.2%	132 23.2%
その他	0 0.0%	1 0.4%	1 0.8%	2 3.2%	4 0.7%
知りたいことはない	8 5.6%	7 3.0%	1 0.8%	2 3.2%	18 3.2%
エイズ情報を知りたい媒体(複数回答)					
テレビ	69 48.3%	134 56.8%	71 55.0%	36 58.1%	310 54.4%
専門書	10 7.0%	23 9.7%	10 7.8%	7 11.3%	50 8.8%
雑誌	34 23.8%	54 22.9%	35 27.1%	11 17.7%	134 23.5%
パンフレット	20 14.0%	31 13.1%	15 11.6%	16 25.8%	82 14.4%
ポスター	17 11.9%	19 8.1%	14 10.9%	4 6.5%	54 9.5%
電車つり広告	9 6.3%	14 5.9%	11 8.5%	2 3.2%	36 6.3%
ラジオ	20 14.0%	18 7.6%	8 6.2%	7 11.3%	53 9.3%
インターネットホームページ	62 43.4%	140 59.3%	76 58.9%	36 58.1%	314 55.1%
携帯ホームページ	11 7.7%	13 5.5%	9 7.0%	2 3.2%	35 6.1%
専門家講演会	5 3.5%	10 4.2%	6 4.7%	6 9.7%	27 4.7%
職場内広報誌や研修会	7 4.9%	9 3.8%	11 8.5%	5 8.1%	32 5.6%
その他	0 0.0%	4 1.7%	2 1.6%	3 4.8%	9 1.6%
どんな媒体でもよい	24 16.8%	34 14.4%	20 15.5%	15 24.2%	93 16.3%
インターネットでエイズ性感染症情報得たい*					
はい	94 66.2%	183 78.9%	102 79.1%	45 73.8%	424 75.2%

表3. エイズ関連事項(年齢階級)＜成人男性＞

	年齢階級				合計 n=570
	20歳代 n=143	30歳代 n=236	40歳代 n=129	50歳代 n=62	
インターネットのエイズ・性感染症サイトに望むこと(複数回答)					
明るい配色	20 14.0%	34 14.4%	25 19.4%	10 16.1%	89 15.6%
落ち着いた配色	44 30.8%	58 24.6%	36 27.9%	17 27.4%	155 27.2%
写真がある	37 25.9%	72 30.5%	37 28.7%	18 29.0%	164 28.8%
イラストがある	37 25.9%	69 29.2%	41 31.8%	23 37.1%	207 36.3%
文字による詳しい説明がある	41 28.7%	94 39.8%	49 38.0%	23 37.1%	207 36.3%
動画による説明がある	14 9.8%	39 16.5%	18 14.0%	16 25.8%	87 15.3%
音楽・音声が流れる	4 2.8%	13 5.5%	6 4.7%	4 6.5%	27 4.7%
キャラクターが登場する	10 7.0%	11 4.7%	8 6.2%	4 6.5%	33 5.8%
クイズ形式になっている	11 7.7%	23 9.7%	13 10.1%	8 12.9%	55 9.6%
メールで質問を送ることができる	28 19.6%	44 18.6%	28 21.7%	11 17.7%	111 19.5%
常に新しい情報がアップデートされる	35 24.5%	83 35.2%	54 41.9%	22 35.5%	194 34.0%
関連サイトへのリンクがある	18 12.6%	42 17.8%	30 23.3%	11 17.7%	101 17.7%
携帯電話でも見ることができる	16 11.2%	27 11.4%	29 22.5%	9 14.5%	81 14.2%
スマートフォンに対応している	17 11.9%	39 16.5%	23 17.8%	7 11.3%	86 15.1%
その他	1 0.7%	2 0.8%	1 0.8%	0 0.0%	4 0.7%
どんなサイトでもかまわない	5 3.5%	17 7.2%	12 9.3%	2 3.2%	36 6.3%
周囲にHIV陽性者がいる					
はい	3 2.1%	6 2.6%	3 2.3%	0 0.0%	12 2.1%